

福岡城天守台調査 発掘開始のお知らせ

福岡市では、国史跡福岡城跡を適切に保存し、歴史的価値を次世代に継承するため、石垣や建造物などの保存・整備を進めています。

今年度は、福岡城天守台・本丸の文化財調査（福岡城天守台調査）を実施しており、6月30日（月）からは発掘調査を開始する予定です。つきましては、報道の方々へ向けて発掘調査の概要についてご説明し、併せて発掘作業の様子をご覧いただきたいと思いますので、当日の取材よろしくお願いたします。

概 要

日 時：令和7年6月30日（月）9時30分～10時00分（予定）

※小雨決行します。

集合場所：福岡城天守台前（福岡市中央区城内）

内 容：9：30 ～ 9：45 事業概要の説明

9：45 ～ 10：00 発掘作業

※報道関係以外の方のご参加はご遠慮ください。

【場所地図】



福岡城天守台



経済観光文化局 文化財活用部 史跡整備活用課
担当：中村・藏富士
TEL：092-711-4470（内線 4470）
E-Mail：shiseki.EPB@city.fukuoka.lg.jp

《 参 考 資 料 》

福岡城について

【国史跡 福岡城跡とは】

福岡城は初代藩主黒田長政とその父黒田如水(官兵衛)により、1601(慶長 6)年～1607(慶長 12)年にかけて築城された平山城です。城内は本丸・二ノ丸・三ノ丸で構成されています。城内面積は約 41 万㎡、濠を含めた総面積は約 110 万㎡で、九州の城の中でも有数の規模です。

城内には 47 の櫓があったとされ、その他に本丸御殿など多くの建造物がありましたが、明治以降ほとんどの建物が解体・払下げ等で失われ、城内に現存する建物は多聞櫓（国指定重要文化財）などごく一部です。1957（昭和 32）年に国史跡指定を受けています。

【天守台と穴蔵】

天守台とは、天守の土台となる石垣のことで、福岡城の天守台(大天守台)は、上面の大きさが東西約 25m、南北約 22mの大きさです。天守台の内部は、石垣に囲まれた空間となっており、この空間のことを「穴蔵(あなぐら)」と呼びます。

天守は天守台石垣の上に築かれるため、スムーズな出入りのため、天守台の中は穴蔵となる場合が多く、ここに天守 1 階へと上る階段を設けます。穴蔵は建物の一部(地階)であると同時に、建物を支える重要な役割を持っているといえるでしょう。



▲天守台穴蔵

発掘調査について

今回の発掘調査は、天守台内部の穴蔵を対象とします。調査の開始にあたっては、地面を掘削する前に、まず現況の観察や測量、写真撮影といった作業を行ない、調査前の状態を記録します。

そして観察の所見や測量図を元に、実際に地面を掘る場所と範囲（調査区）を設定します。また発掘調査による記録を作成するための基準点も設置します。

これら作業が終了した後に、初めて地面の掘削を開始します。発掘は人力で行ない、掘り出した遺構や遺物は記録を取っていきます。掘り上げた土もいったん持ち帰り、ふるいにかけて遺物が含まれていないかを確認します。史跡である福岡城を毀損することがないように、掘り下げは慎重に行ないます。

調査終了後は、掘り出した土で埋め戻しを行ない、可能な限り元通りの姿に戻します。



▲発掘調査の様子（潮見櫓調査）